

## B-43 反応染料によるセルロース繊維の溶剤染色

お茶の水女大家政 ○蔡絹齡 今條桂子 大林育子 林雅子 矢部章彦

目的 反応染料によるセルロース繊維の水系染色では一般に固着率が低く、染料の利用率が悪い。そのため排水処理等にも問題があるようである。そこで非水溶剤系において有効な反応染色を行なう基礎となる情報を得るため、アゾ系およびアントラキノンの発色団をもつ2、3のジクロロトリアジン型反応染料につき、パークロルエチレン(PCE)を溶媒とするセルロース染色について検討した。

方法 反応染料として C.I. Reactive Yellow 4, Blue 4, Red 2, Red 11 を用い、染色溶媒をPCE/水混合系とし、水の割合を変化させた場合、および水5/PCE 145 (V/V) 混合系において、アルカリ膨潤させたセロハンフィルムを浴比1:300、20~40℃で恒温振とう機により染色を行ない、予め求めた検量線より吸着量、固着量を求め水染色の場合と比較した。

結果 水染色に比べ溶剤を用いる染色では、次のようなメリットがあることが明らかになった。①固着平衡到達速度が速いこと ②水/PCEの比が小さくなるに従い固着率は増大する。③中性塩を加えず、吸着・固着ができること ④染料にもよるが、25g/l(水)または50g/l(水)の中性塩を添加した場合の吸・固着率は水染色に比べて格段に増大すること、などである。